

インターバンクの声（2017年7月26日）

昨日はロンドン市場の午前中からドル買い・円売りが進み、円相場は先週末の東京市場の午後以来となる112円台回復まであと数銭の水準に戻ってきた。東京市場の午前中には、111円30銭台までドルが上昇していたが、その後、ゆっくりドル売りが進行、3時過ぎには再びドル安に向かいそうな気配が漂い始めていた。

しかし、ロンドン市場の早朝から米長期金利が上昇し始めたことでドルが反発、ニューヨーク市場の終盤には111円90銭台まで上げてきた。

欧米の国債利回りが上昇していたところに原油価格の上昇も加わり、昨夜は7月の米消費者信頼感指数やリッチモンド連銀製造業指数の結果も市場予想を上回った。ドルを買い持ちにしている投資家にとっては一安心と言いたいところだが、米FOMCで追加利上げに慎重なハト派的な声明が出されれば、再びドル売りに戻る可能性が高い。

ユーロ、ポンド、豪ドルなども一旦調整を図ったようにも見え、明日の日本時間未明のFOMCまでは動き難くそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。